

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立国本中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

平成29年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語A 143人 国語B 143人

② 数学A 143人 数学B 143人

#### 5 留意事項

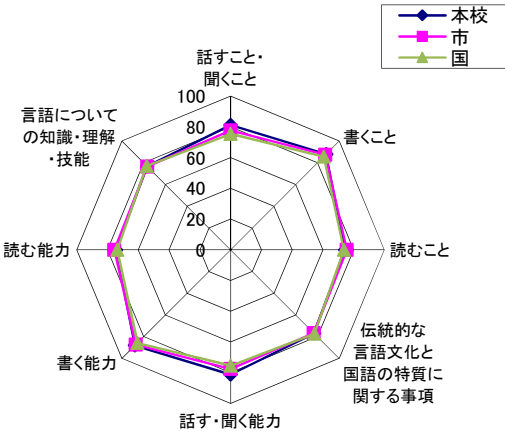
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」, 「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立国本中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

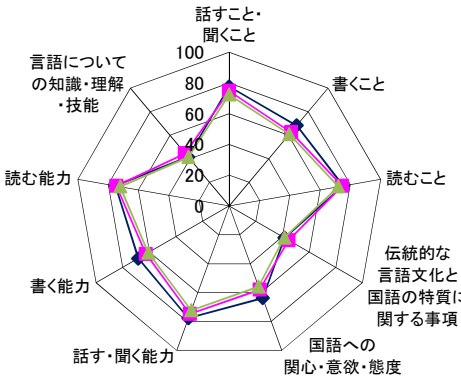
【国語A】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 81.2 | 77.6 | 75.4 |
|     | 書くこと                 | 88.0 | 87.3 | 85.7 |
|     | 読むこと                 | 74.6 | 75.6 | 73.8 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 76.8 | 76.6 | 77.2 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         |      |      |      |
|     | 話す・聞く能力              | 81.2 | 77.6 | 75.4 |
|     | 書く能力                 | 88.0 | 87.3 | 85.7 |
|     | 読む能力                 | 74.6 | 75.6 | 73.8 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 76.8 | 76.6 | 77.2 |



【国語B】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 77.7 | 74.8 | 72.4 |
|     | 書くこと                 | 68.3 | 62.6 | 60.8 |
|     | 読むこと                 | 75.2 | 74.6 | 72.1 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 41.6 | 44.7 | 41.4 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 63.8 | 58.0 | 55.9 |
|     | 話す・聞く能力              | 77.7 | 74.8 | 72.4 |
|     | 書く能力                 | 68.3 | 62.6 | 60.8 |
|     | 読む能力                 | 75.2 | 74.6 | 72.1 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 41.5 | 44.7 | 41.4 |



★指導の工夫と改善

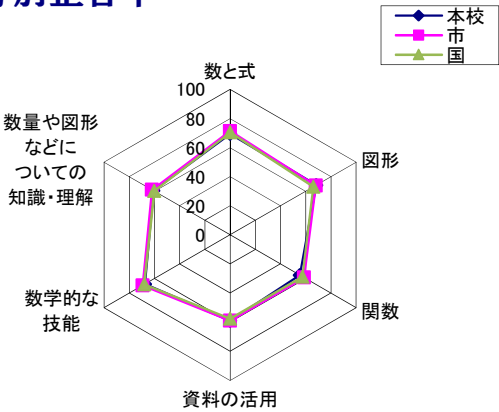
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                                                  | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                  |
|----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○すべての出題において全国や県の平均よりも正答率が高い。特に、事実と考へるの係に注意し、構成を工夫して話すことや相手の反応を踏まえながら事実や事柄を相手に分かりやすく工夫することの正答率が高い。<br>●相手に分かりやすいように語句を選択して話すことの正答率は全国や県平均よりも8.6%高いものの、正答率は62.7%にとどまっている。 | ○話し手、聞き手ともに互いを意識した「話し方」「聞き方」ができるようになってきている。特にペアから5～6人のグループ形態での話し合い活動はスムーズである。今後さらに効果的に伝わるように語句を選択するなど、聞き手を意識した話し方を工夫する活動を取り入れていきたい。また、客観的に自分の力を実感できるように聞き取りテストを継続実施していきたい。                |
| 書くこと                 | ○すべての出題において全国や県の平均よりも正答率が高い。特に、文章の構成を工夫して分かりやすく書くことや必要な情報を集めるための見通しをもつことの正答率が高い。<br>●表現の仕方(比喩など)について捉え、自分の考えを書くことの正答率は全国や県平均とほぼ同じだが、正答率は41.5%となっている。                    | ○意見文の構成の型を意識して書く訓練を重ねたことにより、以前より書くことへの抵抗が少なくなった生徒が多い。今後も優れた文章を批評する力を養い、その構成や表現方法を学ばせ、自分の文章表現に役立てる指導を行ってきたい。また、資料を読み解き、自分の考えをもち、目的・相手を意識して書く機会を設けていきたい。                                    |
| 読むこと                 | ○全国や県の平均と比較して正答率はほぼ平均値の前後である。文章の要旨を捉えることや目的に応じて必要な情報を読み取り、内容を理解することの正答率が高い。<br>●場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解することの正答率が栃木県平均と比較して2.5%が低い。                                   | ○読む力は概ね身に付いており、筆者の主張とそれを支える根拠(論証)を意識して説明的文章を読むことや、登場人物の言動の意味を考えて文学的文章を読むことができるようになってきた。<br>○朝の読書やブックトークにより読書習慣は多くの生徒に身に付いている。今後も多彩な作品に触れていく機会を設け、登場人物の心情の理解や文脈にあった語句の意味の確実な理解につなげていきたい。   |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○文脈に即して漢字を正しく読むことの正答率は90%以上と高い。<br>●文脈に即して漢字を正しく書くことの正答率は読むことに比べて低い。また、語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことの正答率が全国や県平均よりも低い。事象や行為などを表す多様な語句について理解することの正答率は33.1%と県平均と比較しても3.4%低くなっている。 | ○「読めるけど書けない」。特に小学校での既習漢字がうろ覚えになっている。1学年下の配当漢字の読み書きの復習を含め、学年配当の漢字を継続的に学習するプリントを作成し、確認テストを行うこと、漢字練習帳の提出を習慣化することで定着を図りたい。<br>○ことわざや慣用句、抽象的な意味の語句、事象や行為を表す多様な語句などが使いこなせない。機会を設けて紹介、練習をしていきたい。 |

宇都宮市立国本中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

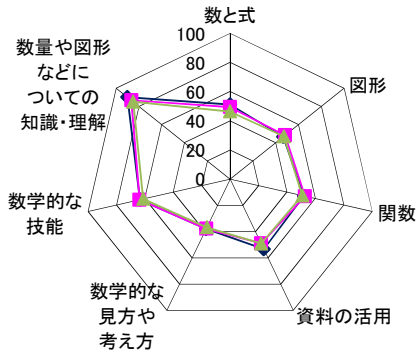
★本年度の国、市と本校の状況  
【数学A】

| 分類 | 区分                | 本年度  |      |      |
|----|-------------------|------|------|------|
|    |                   | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と式               | 69.5 | 71.4 | 70.4 |
|    | 図形                | 68.3 | 67.9 | 66.0 |
|    | 関数                | 55.3 | 58.6 | 57.4 |
|    | 資料の活用             | 59.0 | 58.9 | 57.6 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度      |      |      |      |
|    | 数学的な見方や考え方        |      |      |      |
|    | 数学的な技能            | 67.7 | 69.3 | 68.2 |
|    | 数量や図形などについての知識・理解 | 61.0 | 61.9 | 60.2 |



【数学B】

| 分類 | 区分                | 本年度  |      |      |
|----|-------------------|------|------|------|
|    |                   | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と式               | 51.2 | 49.4 | 46.3 |
|    | 図形                | 46.7 | 48.3 | 47.1 |
|    | 関数                | 51.9 | 52.7 | 50.8 |
|    | 資料の活用             | 53.3 | 49.0 | 49.1 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度      |      |      |      |
|    | 数学的な見方や考え方        | 37.9 | 37.8 | 36.8 |
|    | 数学的な技能            | 63.4 | 63.7 | 61.2 |
|    | 数量や図形などについての知識・理解 | 90.1 | 86.7 | 85.1 |



★指導の工夫と改善

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                            | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                                     |
|-------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式   | ○文字式の計算や方程式の計算の正答率が高く、計算技能の面で良好な状況が見られる。<br>○ストーリーで六角形を $n$ 個作る場合に必要な本数を式で表す問題では、図を利用しながら説明の筋道を読み取ることができている。<br>●文章を読んで一単位当たりの量を文字式で表したり、二元一次方程式の解の意味を選ぶ問題の正答率は、他の設問に比べて30～40ポイント低い。用語の意味の理解や文章の読解に課題が見られる。       | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・文章読解力に課題が見られるため、文章から分かる情報を図や表を用いて整理することを通して、わかりやすくなることをおさえる。<br>・問題文を読む際には、主語と述語を意識しながら条件と求めたいものを区分けするよう指導する。<br>・教科書巻末にある「補充の問題」を活用し、必要に応じて振り返りができるようにする。      |
| 図形    | ○全国や県の平均、他領域の平均に比べて平均正答率が高い。作図の根拠や証明の根拠として用いられる三角形の合同条件、および作図の手順などがよく理解されている。図、式、言葉による表現を常に関連させ、具体的に作図して実感を伴わせる場面を設定した成果と考えられる。<br>●扇形の弧の長さや円柱の体積を求める計算に課題が見られる。<br>●点や図形が移動する問題については、動く様子をイメージしながら考えるのが難しい傾向にある。 | ・今後、三平方の定理を平面図形や空間図形に活用させる際、再度面積や体積の求め方の公式を確認し、理解を深めていきたい。<br>・証明では、図・式・言葉のつながりを意識しながら扱い、視覚的に理解を促すように板書の色使い等工夫する。<br>・抽象的に考えるのが難しい生徒には、具体的に紙を折って考えたり、作図をしたものを動かしたりして様々な方向から図を見て確認する作業を丁寧に扱う。 |
| 関数    | ○活用問題のダムの貯水量に関する問題で、必要な情報をグラフから読み取ることができている。<br>●関数の意味を問う問題の正答率が20.1%、反比例に関わる問題の正答率が31.7%で、A問題の中で特に低い。用語の理解に課題が見られる。<br>●活用問題で、与えられた表やグラフを用いて問題解決の方法を説明することが難しい。                                                  | ・関数、傾き、切片、増加量、変化の割合など基本的な用語の意味を、表やグラフではどのような形で表れているのかを並行しておさえる。<br>・具体的な事象において、ともなって変わる2つの数量の変化や対応の様子を表やグラフを用いて調べる活動を大切にし、生徒自ら規則性を見いだせるよう支援する。                                               |
| 資料の活用 | ○赤玉、白玉に関する確率問題や、「同様に確からしい」の意味を問う問題の正答率が高く、用語の理解に良好な状況が見られる。<br>●資料の整理では、「範囲」の用語の意味については、定着していない。<br>●活用問題で、資料の傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率は16.2%で、課題が見られる。                                                    | ・今後、標本調査の単元で、資料の代表値について学び直しの機会を設定し、代表値の必要性和用語の意味を再確認する。<br>・資料の傾向を捉えて説明をする場面では、説明の仕方のパターンを示し、何に注目して特徴をとらえればよいのかについて見通しを立てられるようにする。また、できるだけ口語的な表現ではなく、数学的な用語を使用するようにさせる。                      |

## 宇都宮市立国本中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

授業や学習について

○「授業で学んだことを、ほかの学習や普段の生活に生かしていますか」「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対して全国と比べて5ポイント以上高い。

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」に対して全国と比べて4.9ポイント以上高い。

1, 2年生のときに受けた授業について

○「生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」「生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか」「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」に対して、全国と比べて5ポイント以上高い。

●「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」に対して、栃木県と比べて5ポイント低い。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」に対して「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、全国と比べて9.9ポイント、栃木県と比べて9.1ポイント低い。

国語について

○国語に関する問題で、「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよく分かりますか」「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」「国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか」「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」のすべてに対して、「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、全国と比べて10ポイント以上高ポイントである。

数学について

○数学に関する質問で「数学の授業の内容はよく分かりますか」と回答した割合が、全国と比べて6.2ポイント、栃木県と比べて4.7ポイント高い。

●数学に関する質問で「数学の勉強は好きですか」「当てはまる、どちらかといえば当てはまる」と回答した割合が、全国と比べて9.9ポイント、栃木県と比べて9.5ポイント低い。

家庭学習について

○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」に対して3時間以上の回答が、全国に対して7.4ポイント高い。「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」に対して、全国に比べて5ポイント以上高い。

自分自身について

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」「地域の大人（学校や塾・習い事の先生は除きます。）に勉強やスポーツを教えてもらった、一緒に遊んだりすることがありますか」に対して、全国、栃木県と比べて5ポイント以上高い。

●「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、栃木県に比べて5.4ポイント低い

●「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか」「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか」に対して、全国、栃木県と比べて5ポイント以上低い。

自分自身について

○「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」「地域の大人（学校や塾・習い事の先生は除きます。）に勉強やスポーツを教えてもらった、一緒に遊んだりすることがありますか」に対して、全国、栃木県と比べて5ポイント以上高い。

●「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、栃木県に比べて5.4ポイント低い

●「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いますか」「将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いてみたいと思いますか」に対して、全国、栃木県と比べて5ポイント以上低い。

毎日の生活について

○「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか」週に3回以上行くに対して、全国、栃木県と比べて、10ポイント以上高い。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」に対して、全国、栃木県に比べて5ポイント以上低い。

家庭について

○「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか」「家の人（兄弟姉妹を除く）と将来のことについて話すことがありますか」「家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」に対して、すべて全国に比べて5ポイント以上高い。

## 宇都宮市立国本中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                                                                                                                                                                               | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒を認め生かす授業の工夫～学びに向かう力や人間性をはぐくむ～」</li> <li>(1) 基礎・基本の確実な定着</li> <li>(2) 学習指導の工夫・改善</li> <li>(3) 読書活動の充実</li> <li>(4) 家庭・地域との連携・協力</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いや学び合いを取り入れ、多様な視点から課題について考えさせる協働的な学習</li> <li>・「家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと、基礎的・基本的な知識の定着</li> <li>・話し合いや学び合いを取り入れ、多様な視点から課題について考えさせる協働的な学習</li> <li>・効果的な発問、支持、助言、板書、ノート指導法の工夫と改善</li> <li>・全校読書の実施</li> <li>・ブックトークの実施</li> <li>・図書館だよりの発行</li> <li>・「茶摘み」「学校農園」「体育祭」「学校祭」などの家庭・地域から協力を得た学校行事の実施</li> <li>・保護者・地域と連携した土曜授業の実施</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1、2年の時に受けた授業の質問からも、話し合い活動を取り入れ協働的な学習がされている。</li> <li>・家庭学習についても予習復習をしているポイントが高い。</li> <li>・昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校の図書室や地域の図書館に行くポイントがかなり高く、読書活動は充実している。</li> <li>・ボランティア活動については、学校では生徒会福祉委員会で、アルミ缶を回収し、毎年車いすを寄付したり、ペットボトルやボトルキャップ等の回収、地域にはボランティア団体もあり、多くの生徒が貢献している。</li> </ul> |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                                                                                                                                                                                                | 重点的な取組                                                                                                                                                                                     | 取組の具体的な内容                                                                                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身に自信を持っていないポイントが高いため、意見の発表についてのポイントが低いということにも影響していると考えられる。</li> <li>・学習内容を振り返ることができる授業の展開を工夫する。</li> <li>・授業の内容はよくわかるというポイントは高いが、その教科を好きにさせる授業の工夫をする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生徒を認め生かす授業の工夫～学びに向かう力や人間性をはぐくむ～」平成28年度から3年計画の2年目に当たる。学びに向かう力や人間性を育むための視点を取り入れることで、生徒が自ら課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぼうとする意識や態度を育む授業の展開を続けていく。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いや学び合いを取り入れ、多様な視点から課題について考えさせる協働的な学習の工夫。</li> <li>・効果的な発問、指示、助言、板書、ノートの指導法と改善。</li> <li>・授業の狙いの明確化と振り返りのあり方、1時間の授業のスケジュールを考えた授業構築の追究。</li> <li>・生活や授業の中で、自分に自信を持ち自己存在感を高めることが大切である。</li> </ul> |